

2011年度PMからのメッセージ

氏名・所属: 原田 康徳 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所 主任研究員)

略歴:

1984年 旭川工業高等専門学校 電気工学科卒業
1992年 北海道大学大学院 工学研究科
情報工学専攻博士課程卒業 博士(工学)
1992年 日本電信電話株式会社 NTT基礎研究所
1998年 科学技術振興事業団さきがけ研究員 (~2001年)
2000年 現職

専門分野:

プログラミング言語
ユーザインタフェース
体験型学習
メディアアート

メッセージ:

ソフトウェアが世の中に与える影響は年々大きなものになっています。複製や流通が簡単にできるため、たった一人の能力がこれほどまでに大きく増幅されるというのは他にないでしょう。新しいソフトウェアを作ることができる能力は、これからの時代に最も重要なスキルの一つである、ということを皆さんはしっかりと認識してください。ソフトウェアを自由自在に作ることができるあなたは、世の中を大きく変える可能性を誰よりも大きく持っているのです。

一方で、自然な経済活動の中から生まれたソフトウェアは、経済の中心すなわち、強者の立場にたったものが多くなるのは仕方がありません。お金持ちはよりお金が儲かるようなソフトウェアを作ります。誰もがお金持ちになりたいので、お金が儲かるソフトウェアが増えるのは当然です。

本制度は国民の税金で支えられていますから、国民の目線、特に経済的にはあまり目を向けられない弱者の視点を持つ必要があると私は考えています。ソフトウェアは強者、弱者に等しくその能力を発揮しますけれど、特にロングテール側に多い弱者にこそソフトウェアの能力が生かされるのだと思います。

多くの人に支持される必要はありません。少数にしか支持されていないけれど、その人たちの生活を大きく変えることができるかもしれません。こういうソフトウェアは、ビジネスの立場からは「売れなさそう」の一言で片付けられてしまいがちですが、しかし求めている人は確実に居ます。

若い人たちは、世の中の経験が少ないので、そういう弱者のニーズを知るチャンスは少ないかもしれませんが。しかし、あなたたちには強く押したい独自技術を持っているわけでもないのに、相手側のニーズを素直に汲み取ることができます(研究者が自分の開発した技術の応用先として、障害者支援といったことを研究することがありますが、技術の応用が彼らの目的なので、本当の支援になっていない、技術を押し付けられてかえって迷惑、ということがよくあります。もちろん本当の画期的な支援もあります)。

ニーズを知るために外に出ましょう。いろんな人の話を聞きましょう。

ソフトウェアの作り方に関してはいろいろとアドバイスできると思いますが、一緒にいろんな現場を見に行くことなどを考えています。

みなさんが小さな、しかし人類にとって大切な革命を起こすことを期待しています。

審査基準:

基本的などのような分野でも、かまいませんが、

- (1) 誰かを確実に幸せにするもの。
- (2) 誰かが不幸にならないもの。

という考えで審査します。

採択されたから実行するという態度はダメです。

採択されなくてもやるんだ、という人じゃないと、世の中を本当には変えられません。